

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）
スペシャルセッション（SS）討議内容の記録

セッション名：経済評価モデルはなぜ誤解されやすいのか？	
日付： 6月 13日（土）曜日，セッション時間： 8:30 ～ 10:00	
オーガナイザー名（所属）：佐藤 徹治（千葉工業大学）	
討議内容	<p>インフラ経済評価モデルの方法論あるいはモデルによる分析結果に関する分析専門家から行政、行政から議会・住民・マスコミへの説明に際しての誤解を招く仕組み、誤解の事例や対処法等についての報告を受け、主に誤解を招かないようにするためにはどうすべきかについて討議が展開された。</p> <p>河川氾濫モデル等で既に作成されているような、いわゆる「モデル取扱説明書」を作成するのが重要であるといった意見や、言語学あるいはレトリック論の知見を活用して、いくつかの典型的なケース毎に誤解への対処法の型を作成する必要があるのではないかといった意見が出された。</p> <p>一方、誤解への対処は本質論ではなく、カスタマイズ戦略に過ぎない。世界標準モデルを早々に確立し、「これが世界標準モデルです、勉強してください」で十分なのではないかとの反対意見もあった。</p> <p>結論として、2つの学術的展開の方向性、すなわち、各経済評価モデルにおける世界標準型の構築を目指すこと、コミュニケーション論を応用して対処法の型を作成すること、が示された。</p>